データ駆動イノベーション推進本部
Data - Driven Innovation Initiative
業務DX推進部門

「業務DX推進プロジェクト」を立ち上げて、部署・業務を横断したデータの最大活用とクラウドシステムに合わせた業務プロセスの標準化を推進すると共に、複数のクラウドシステムを組み合わせて業務プロセスをシンプル化することによって業務の効率化を図る。

＜ 指定国立大学法人構想　九州大学が目指す姿 ＞
総合知で社会変革を牽引する大学
-- 「Kyushu University VISION 2030」より --

＜「目指す姿」を実現するための「力の源泉」＞
教　員

＜ 教員が「研究時間」を確保できない主な要因 ＞
1位:管理運営　2位:教育　3位:事務関連業務
-- 「研究時間確保のためのエフォート分析」（IRによる戦略支援会議）より --

＜ 教員が十分な「研究時間」を確保できるようにするために ＞
事務関連業務のスリム化・極小化を追求

業務DX推進プロジェクト

データ＆フルクラウドを最大限に活用し、「事務局と部局が一体」となって全学的に取り組む業務プロセス変革プロジェクト

Kyushu University
VISION 2030
総合知で社会変革を牽引する大学へ
DX

本部長：総長

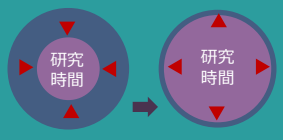
データ駆動イノベーション推進本部

データ駆動型のアプローチにより、教育・研究・医療の質を飛躍的に向上させる

【設置部門】
- 運営・企画部門
- デジタル社会創造研究部門
- ラーニングアナリティクス部門
- 次世代型オープンエデュケーション推進部門
- 研究データ管理支援部門
- 健康医療ＤＸ推進部門
- データ分析支援部門
- ・・・
- **業務DX推進部門**

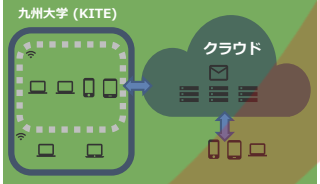
データ及びデジタル技術の活用による業務の質の飛躍的向上を目指す

STEP 1
デジタル技術を活用した業務プロセスの見直しによる業務の効率化



教員の教育研究時間の確保

STEP 2
業務プロセスの標準化とフルクラウド環境の整備による業務の最適化



生じた余剰を教育研究支援業務に再配分

STEP 3
業務データ・各種システムの統合と分析→大学の意思決定に戦略的利活用



データドリブンの大学経営で教育研究を強力に推進

業務ＤＸ推進プロジェクト（2023年度～）
- 事務局及び部局事務部協働プロジェクトとして活動（2026年度は、若手職員31名をDX推進オフィサーに任命）
- 取り組む課題に応じてユニットを形成
- 課題解決に向けた新たな業務プロセスをアジャイルな手法を用いて開発
- 総長・理事等執行部によるガイダンス・評価・フィードバック

＜ 業務DX推進プロジェクト － ３つの留意点 ＞

経営陣のリーダーシップ
現場のアイデアを集結
カルチャー変革にフォーカス

＜ プロジェクトの方向性 ＞

デジタル化ではなくDX
業務プロセスを変え、そこにデジタルを適用

＜ 業務プロセス変革の考え方 ＞

デジタルファースト
個々の業務が一貫してデジタルで完結

ワンスオンリー
一度提出したデータは再度の提出が不要

コネクテッド・ワンストップ
法人内の各種業務の連携も含めたワンストップ化を推進

部署・業務横断による業務プロセスの標準化
部署や業務を横断したバックオフィスデータ連携によるデータの最大活用
クラウドサービスを活用した「Fit to Standard」による業務プロセスの標準化